

## 柏市町会等活動講座 2025 実施報告

- 開催日時：2025年9月22日(月) 10:00~12:00
- 開催場所：ラコルタ柏 2階 多目的研修室1・2
- 参加者：柏市の町会等役員及び防災組織役員27名, 柏市地域協働を考える会10名, 市職員(Go含め)7名
- テーマ：大地震から命と健康を守る！  
～「非常用トイレ」から考える災害時の在宅避難～

### 1. 講義

大地震から命と健康を守る！～「非常用トイレ」から考える災害時の在宅避難～

講師：柏市地域協働を考える会 後藤 進 氏

### 2. 質疑応答・意見

災害時にたいへんなのは排泄、ひとりひとりがどう生き延びるかをシミュレーションすることが大切であることが理解できた。個人の認識を高める必要がある。

### 3. グループ討議内容

#### A グループ(1,200世帯以上の町会等)

##### ① 地域(町会等)での防災等について

- ・ 町会, ふる協で防災運営委員会を作り, 避難訓練等を指定避難所の小中学校で毎月行っている。
- ・ 柏中にはマンホールトイレが7~8基あるが, 使用経験がないので使えるかどうか分からない。
- ・ 柏中では東日本大震災の時, 帰宅困難者で溢れ(市の誘導で)対応ができず, 今後について, 避難してきた人が自ら対応できるよう市と協議中。
- ・ 災害時でも自宅にトイレがあるので, 簡易トイレは不要ではないかと考えていたが, 便器の破損時や避難所ではトイレが足りないので各人で用意しておく必要があると認識した。
- ・ SNS(LINE)利用の対応を検討中だが対高齢者には難しい。当町会のLINE登録者数は700世帯/1300世帯である。
- ・ 避難所へ行きたくないという人も多い。
- ・ 被災者状況を対策本部へ報告しなければならないが, 実際のところ, 実態把握も含めて難しいのではないかと考えている。
- ・ K-Netの対応を町会でやるのは難しい。ケガ人を病院へ連れて行くのは困難である。

##### ② 在宅避難について

- ・ 地震等の災害でなくとも停電時も簡易トイレは必要。ただし, 特に子どもは暗闇の中では怖がって使えない。夜中の発災に対しての対応策(訓練)も色々と教えてほしい。

- ・ 日頃から子供に発災時の行動を教えている。
- ・ 在宅避難では足りない物資を避難所に受け取りに行かなくてはならず、大変ではないか。

#### B グループ(400世帯～1,000世帯程度の町会等)

- ・ 町会で「何をするのがよいか」を検討中。具体的な講座内容で参考になった。
- ・ 個人の意識改革が重要（町会に行けば何かしてもらえないわけではない。）
- ・ 個人での準備等について、定期的な啓蒙が必要。（簡易トイレを是非紹介したい）
- ・ 例えばトイレにしても、すぐに使えるように組み立てておくことが大事。
- ・ 凝固剤等を町会イベント等で配るのもよいかもかもしれない。
- ・ 「無事ですタオル」を活用した取組も有効。
- ・ 町会活動が防災力を高める。『互近助力（ごきんじょりよく）』
- ・ 井戸のマップを作成（10軒。水質検査は町会で実施）
- ・ 中心地域の学校は震災時には帰宅困難者で溢れ、地元民の受け皿（避難所）にはなり得ない。
- ・ 子どもたちでダンボールトイレ作りの体験をするのも良いと思った。

#### C グループ(300～500世帯程度の町会等)

- ・ 講師の説明が現実的で良かった。
- ・ 簡易トイレを初めて体験したが使えると思った。
- ・ 町会で少しは買って置いてもいいかなと思った。
- ・ 会館のトイレには、ビニール袋と凝固剤を用意しておくべきかと考えた。
- ・ 緊急時連絡手段としてのトランシーバーは充電必須で現実的ではない。スマホの活用が鍵だと思う。
- ・ 地域に井戸があったら町会で把握して、使用の可否の確認をやっておいたほうが良い。
- ・ 安否確認はコミュニケーション面でも有効なので、アメとムチで参加してもらおう工夫をしたい。
- ・ 避難訓練は講座で説明があったように、より現実的なトイレの話や、避難所では、1人あたり・家族あたりのスペース確保が厳しいことを認識するよう工夫が肝要。
- ・ 大災害が起きてからでは遅く、日頃からの活動が重要であると良く理解できた。

#### D グループ(集合住宅)

##### ① 簡易トイレの組み立てについて

- ・ 凝固剤が固まるのが早い。500mlの水を入れたが十分対応できていた。
- ・ 座って使用しても大丈夫なことが分かった。

##### ② 防災全般についてについて

- ・ マンションでも安否確認が重要である。
- ・ 住民名簿の記載内容は様々だが、どのマンションでも住民名簿の作成・管理を行

っていた。

- ・ 防災訓練の参加率アップの工夫が必要である。マンションによって参加率は30～70%とバラつきが生じていた。中規模の某マンションでは防災訓練終了後に、居住者間のコミュニケーションを図るために抽選会を実施していた。
- ・ 個人に対して、自助でローリングストックを行うことを伝えて、管理組合は補完する方向である。ただし、管理組合として、定期的に災害備蓄品の棚卸しをきちんと実施しているかに課題がある。
- ・ エレベーター（6階以上あるマンション）の乗降口は2階ごとに1カ所なので、高齢者に影響がある。
- ・ 非常用のはしご（オリロー）は使ったことがないし、高齢者などでは使えない。
- ・ 発災時のマンション内の連絡には、館内放送が使える町会が2カ所ある。一方でハンドマイクで十分聞こえるという町会もある。
- ・ マンションは貯水槽があるので、一定期間は水の確保ができるが、飲料水になるかは不明。大津ヶ丘のみ井戸がある。

#### E グループ(200世帯以下の町会等)

##### ① 簡易トイレ組み立ての感想について

- ・ 組み立ては思ったより簡単だが大きさが問題。家のトイレの活用策を考えたい。
- ・ 家に2つあり、組み立ては参考になる。植木鉢や火鉢等の踏み台を逆さにして利用するなど、家にあるものも活用したい。
- ・ 高齢者は高いものは買えない。あるものを工夫して利用する方が良い。
- ・ 避難所での生活でも、自分でやらなければならないことがある。
- ・ 1人30回分の簡易トイレを町会で用意するのは分かるが、全員分購入するのは難しい。
- ・ ペット用品が安価で役に立つ。抗菌ペットシートなど。

##### ② もしも今地震がきたら（個人）について

- ・ 自分及び家族の安全確保が最優先。そのあと向こう三軒両隣の安否確認。
- ・ 家屋の安全確認。
- ・ 火事を出さないように注意する必要あり。

##### ③ もしも今地震がきたら（町会）について

- ・ 安否確認、要配慮者支援（K-net）等が必要。
- ・ 高齢者、女性が主体となって街を守ることになる。
- ・ 泥棒対策を考える必要がある。
- ・ 東日本大震災では共助率が1%であった。津波があったのも原因かもしれない。

##### ④ その他

- ・ このような講座の機会に、もっと女性の参加が必要と思う。

## 4. 総評

在宅避難は、精神的な安定やプライバシーの確保といった大きなメリットがある一方で、

自宅の安全性・ライフラインの停止・物資の確保・情報収集・孤立対策といった大きな課題に直面します。

これらの準備項目をどれだけカバーできるかによって、在宅避難の選択肢の妥当性が変わってきます。